

22:1 イスラエルの子らは旅を続け、ヨルダンのエリコの対岸にあるモアブの草原に宿営した。

22:2 ツィポルの子バラクは、イスラエルがアモリ人に行ったすべてのことを見た。

22:3 モアブは、イスラエルの民の数が多かったので非常におびえた。それでモアブはイスラエル人に恐怖を抱いた。

22:4 モアブはミディアンの長老たちに言った。「今、この集会は、牛が野の青草をなめ尽くすように、われわれの周りのすべてのものをなめ尽くそうとしている。」ツィポルの子バラクは当時、モアブの王であったが、

22:5 同族の国にある、あの大河のほとりのペトルにいるベオルの子バラムを招こうと、使者たちを遣わして言った。「見なさい。一つの民がエジプトから出て来た。今や、彼らは地の面をおおい、私の目の前にいる。

22:6 今来て、私のためにこの民をのろってもらいたい。この民は私より強い。そうしてくれば、おそらく私は彼らを討って、この地から追い出すことができるだろう。あなたが祝福する者は祝福され、あなたがのろう者はのろわれることを、私はよく知っている。」

22:7 モアブの長老たちとミディアンの長老たちは、占い料を手にしてバラムのところに行き、バラクのことばを告げた。

22:8 バラムは彼らに言った。「今夜はここに泊まりなさい。【主】が私に告げられるとおりに、あなたがたに返答しましょう。」モアブの長たちはバラムのもとにとどまった。

22:9 神はバラムのところに来て言われた。

「あなたと一緒にいるこの者たちは何者

か。」

22:10 バラムは神に言った。「モアブの王ツィポルの子バラクが、私のところに使いをよこし、

22:11 『今ここに、エジプトから出て来た民がいて、地の面をおおっている。さあ来て、私のためにこの民に呪いをかけてくれ。そうしたら、おそらく私は彼らと戦って、追い出すことができるだろう』と申しました。」

22:12 神はバラムに言われた。「あなたは彼らと一緒に行ってはならない。また、その民をのろってもいけない。その民は祝福されているのだから。」

22:13 朝になると、バラムは起きてバラクの長たちに言った。「あなたがたの国に帰りなさい。【主】は私があなたがたと一緒に行くことをお許しにならないから。」

22:14 モアブの長たちは立ってバラクのところに帰り、そして言った。「バラムは私たちと一緒に来ることを拒みました。」

バラムは異邦の占い師であって、聖書の預言者とは違います。しかし、迫害者であったサウロに主が語りかけたように、このバラムにも主は語られたのです。誰かの救いを願うとき、チャンスが全くないからとあきらめることなく、主が直接語られることさえも期待できますから、あきらめないで主の奇跡を祈りましょう。

バラムは主に対して正しい神観を持っていたわけではありませんでしたが、それでも真理を求めていたので、正しいことを語ることができました。

未信者の語ることに、主の真理が含まれることがありますから、それを伝道のきっかけにすることができるのではないのでしょうか。良いチャンスがないかどうか考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

